

PressRelease

(平成30年8月1日号)

当所会員事業所の株式会社こころより情報提供がございました。一般社団法人竹原地区医師会主催において、来る9月2日(日)「妻の病 ～レビー小体型認知症～」上映会開催のご案内が以下のとおり届いております。報道機関各位におかれましては、情報発信のご協力の程よろしくお願いいたします。

<<無料上映会開催>>

「妻の病 ～レビー小体型認知症～」

一人の医師と、認知症の日々を生きる妻との
10年にも及ぶ”いのち”を巡る物語

開催日：9月2日(日)

14:15～上映

会場：竹原市民館

(竹原市中央5丁目5-24 / Tel:0846-22-0010)

入場料：無料

13:00 会場
14:00 開会挨拶
14:05 ミニ講座
14:15 映画上映
16:00 終了

《映画のストーリー》

誰の上にも起きる可能性がある認知症という病。愛する人が認知症になったとき、あるいは自分が認知症になったとき、いったい何が大切なのか…。このドキュメンタリー映画は、一人ひとりに深い問いかけをなげかけています。

主催：一般社団法人 竹原地区医師会

共催：竹原市

【お問い合わせ先】

一般社団法人竹原地区医師会

〒725-0026 広島県竹原市中央三丁目 14-1

(竹原市保健センター内)

TEL(0846)22-9377

【送信元】

竹原商工会議所 中小企業振興課 (担当:田中)

Tel:0846-22-2424 / Fax:0846-22-2038

e-mail:tanaka@takeharacci.or.jp

報道機関各位 ◀◀◀ 竹原商工会議所

文字・画像等見えづらい場合は、メールにてデータを送信することも出来ますので、お気軽にお申し付け下さい。

PressRelease

(平成30年8月1日号)

毒女の病

— レビー小体型認知症 —

一人の医師と、認知症の日々を生きる妻との
10年間に及ぶ“いのち”を巡る物語。

開催日: **9月2日(日) 14:15~上映**

会場: **竹原市民館** 竹原市中央5丁目5-24
Tel. 0846-22-0010

入場無料

Life is like a Dream, isn't it?

「生きなきゃ…
ふたりでよう頑張ったと思う。」
「うん、生きなきゃ。」

(ヒューマンドキュメンタリー映画)
伊勢 真一 演出作品

製作/いせフィルム <http://www.isefilm.com/>

2014年/カラー/1時間27分

【送信元】

竹原商工会議所 中小企業振興課 (担当:田中)

Tel:0846-22-2424/Fax:0846-22-2038

e-mail:tanaka@takeharacci.or.jp

文字・画像等見づらい場合は、メールにてデータを送信することも出来ますので、お気軽にお申し付け下さい。

PressRelease

(平成30年8月1日号)



ライフイズ ライク アドリーム

「まるで夢のようだね…」
認知症の日々を生きる妻に、夫が語りかける。二人はうなずき合う。この映画は、認知症のドキュメンタリーというよりも、病を経て絆を深める、ある夫婦の愛の物語である。

2011年3月11日。東日本大震災のその日。私はひとりの友人の話を聞くために、高知県南国市にいた。友人の名は石本浩市(62才)、ふるさとのその地で小児科を開業する医師である。十数年前、小児がんの子どもたちのキャンプで出逢い、10年がかりで『風のかたち』という映画を製作した仲間だ。その日、石本さんが語ったのは、小児がんの話ではなかった。
——レビー小体型認知症。それが、彼の妻の病名だった。

妻・石本弥生さんは、石本さんとは幼なじみ。50代から若年性の認知症となり、10年間、石本夫妻は病との闘いに明け暮れて来た。小児がん治療と地域医療の取り組み、妻・弥生さんの認知症との格闘、決してキレイゴトでは片付けられない

日々…。石本さんは、医師ならではの観察眼で、弥生さんの発症以来の日常を、まるでカルテを書くように、こと細かに記録していた。

認知症が進行し、今では身の回りのことがほとんど何も出来なくなった弥生さん…。その弥生さんに深い愛情を寄せケアする石本さん、家族、親戚、地域の人々。映画『妻の病 -レビー小体型認知症-』は、四国・南国市の豊かな自然に育まれ、支えあうように生きて来た一人の医師と、認知症の日々を生きる妻との、10年間に及ぶ“いのち”を巡る物語である。

「生きなきゃ… ふたりで よう頑張ったと思う。」
「うん、生きなきゃ。」
(演出・伊勢真一)

伊勢 真一 (いせ しんいち)
ドキュメンタリー映像作家。1949年東京都生まれ。「赤穂ちゃん」「えんとこ」をはじめ、数多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。近年は若手の作品プロデュースも積極的に手がけている。「風のかたち」文化庁映画賞・カトリック映画賞受賞。「大丈夫。」キネマ旬報文化映画賞第1位。「僕(かたむら)」キネマ旬報文化映画賞第6位。2012年日本映画ペンクラブ功労賞、2013年度シネマ夢倶楽部賞受賞。

石本 浩市(いしもと こういち)小児科医
1951年高知県南国市生まれ。順天堂大学医学部卒業、小児科医となる。小児がん医療に取り組み、最前線で活躍。2001年に数郷・南国市へ戻り「あけぼの小児クリニック」を開業。地域医療に取り組み、10年間に及ぶ妻・弥生さんの病との日々を生きてきた。
石本 弥生(いしもと やよい)石本さんの妻
石本浩市さんとは幼なじみ。2004年に統合失調症と診断される。その3年後、若年性のレビー小体型認知症であることが判明。現在に至る。

出演 — 石本浩市 石本弥生 石川真穂
題字 — 梶谷亮太
撮影 — 石倉隆二
音響 — 米山晴
録音 — 遠辺太郎
編集技術 — 尾所弘一
パンフレット — 大久保ひびき
コントラスト — カイドーユタカ
音楽協力 — 橋内西午
宣伝デザイン — 森岡寛典(シオングラフィック)
制作・上映デスク — 遠藤郁美
販売担当 — 堀見真弓
増馬剛子
製作協力 — ヒボコミュニケーションズ
一陽社
ハチプロダクション
企画・製作 — いせフィルム
演出 — 伊勢真一
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金

——愛する人が認知症になったとき、一体何が大切なのか。

誰の上にも起きる可能性がある認知症という病。
愛する人が認知症になったとき、
あるいは自分が認知症になったとき、一体何が大切なのか…。
この映画は、一人ひとりに深い問いを投げかけています。



【レビー小体型認知症】
アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症とともに、“三大認知症”といわれている。パーキンソン症状と幻視・幻聴体験、そして認知症独特の記憶障害がみられる疾患。「レビー小体」とよばれる異常物質が脳組織に沈着する。症状には波があり、鬱(うつ)症状もみられるため、同居する家族の精神的負担も大きい。

開催日: 9月2日(日) 14:15~上映

会場: 竹原市民館 (竹原市中央5丁目5-24)
TEL 0846-22-0010

お問い合わせ先: 一般社団法人竹原地区医師会
TEL 0846-22-9377

主催: 一般社団法人 竹原地区医師会 共催: 竹原市・竹原地域医療介護推進協議会

13:00 開場
14:00 開会挨拶
14:05 ミニ講座
14:15 映画上映
16:00 終了

日本語字幕付き上映
上映時間 1時間27分
※商業施設への駐車は迷惑となりますのでご遠慮ください。

【送信元】
竹原商工会議所 中小企業振興課 (担当: 田中)
Tel: 0846-22-2424 / Fax: 0846-22-2038
e-mail: tanaka@takeharacci.or.jp